

ただのコミュ障だった私の起業ストーリー

～幽霊と呼ばれた私がビジネスをはじめて人生変わった体験記～

1. はじめに

どうもこんにちは、まみです。

このレポートを開いていただきありがとうございます！

今日は、岐阜から出てきたばかりの田舎もん大学生だった私が、東京で事業を始めるに至るまでの話をしていきます。

18歳で新幹線に乗って東京駅に降り立ったとき、まさか3年後にこんな生活を送っているとは予想もしていませんでした。

ほんの1年前までは、ただの大学生でしたからね。

その状態からどうやって自分でビジネスをはじめたかというところ、何か特別なことをしたわけではなく、ただビジネスの王道を学び、素直に実践したまでです。

決して天才発明家や、鬼才のプログラマーというわけではありません。

だから、いわゆる起業家の自伝によくあるような、

「ハラハラドキドキの波乱万丈物語」をお求めの方にとっては、このレポートは役にたたないことでしょう。

どうぞすぐに消去してください。

私はこれまで、むしろ地味な方に分類される人生を歩んできました。
それはこの後に書く通りです。

そんな私でも、
ある時ある人からある情報を得て、
たった1つのパソコンに張り付き、
六畳一間のアパートにこもり、
愚直に実践したことで、
今の生活を手に入れることができました。

だからこそ、
私にしか伝えられないことがあると思い、
今この文章を書き始めています。

興味を持っていただけたなら、
ここからどうぞ。

↓ ↓ ↓

↓ ↓ ↓

↓ ↓ ↓

2. 「ソフトクリーム食べたい！」が言える、甘え上手な妹が羨ましかった

私は21歳で事業をはじめました。

現在は外注さんに指示を出しながら、インターネット上に仕組みを構築しています。

その仕組みが私の収益を生み出してくれるのですが、それについては後ほど詳しく書くことにします。

私のブログやYouTubeでは、インターネットでできるビジネスの情報を発信しているので、そちらを見ている人は詳しくご存知かと思います。

読者の方のなかには、「自分もビジネスをやってみたい！」という意欲的な人が多く、毎日毎日、私のもとには質問メールが寄せられています。

コンサルティング生も含め、読者の方に私の戦略や思考法を伝えることで面白い仲間が増えていってくれば、私にとってこんなに楽しいことはない！！！！と、心から思っているからこそ、こうして発信しています。

この発信をすることで、一緒にいて心から楽しいと思える友達や、刺激を与え合ってお互い成長できるような仲間を見つけることができれば最高ですね。

さて。

「起業家」というと、
あなたはどんなイメージを抱くでしょう？

- ・リーダーシップのある強い人。
- ・社交的で明るく誰にでも愛される人。
- ・斬新なアイデアを持ったクリエイティブな人。

上記は1年前までの
私が考えていた「起業家」のイメージです。

一言でいえば、キラキラした人たちですね。笑

**昔の私は、キラキラとはまるで正反対で、
上の中のどの性格にも当てはまりませんでした。**

だから自分には、
起業なんて一生関係のない世界だと思い込んでいました。
一部の天才にしか縁のないことだと思ってたんです。

私はといえば、幼稚園児の頃からつい1年前ほど前までの
21年間にわたってずーっと地味でおとなしい人間として生きてきました。

幼稚園で、
まわりの子どもたちがキャイキャイはしゃいでる中で、
私はずっと大人しく振る舞っていたそうです。

無邪気さのかけらもありません。

常に黙りこくっていたので、まわりの大人からみれば、可愛げのない子どもだったと思います。

そんな私とは反対に、
妹は人に甘えるのが大得意でした。

誰に対しても、
素直に可愛く甘えられるんですよ。

大人に抱っこして欲しければ、
「だっこー！」って言って笑顔で走り寄って行ってたし。
あれは私にはできない芸当だったなあ。

何より妹に嫉妬したのは、
ソフトクリームのことです。

小学校低学年のころだったかな、
私たち姉妹はよく、おばあちゃん・おじいちゃんに車に乗せてってもらって、
公園に遊びに連れて行ってってもらっていたんですよ。

愛知県の、大きなタワーがある有名な公園です。
そこに毎週のように連れてってもらってました。

公園内の売店を通りがかった時、

おばあちゃんがよく「まみ、ソフトクリーム食べたい？」と言ってくれました。

けど私は一度も「欲しい！」とは言えませんでした。

本当は食べたかったんだけど、
それをぐっところえて、
「今はおなかいっぱいだからいいや」と言っていました。

おばあちゃんに「本当にいいの？」と聞かれても、頑なに意地をはっていました。

謎の意地です。
私も、本当は超ソフトクリーム食べたいんですよ！！
食べたいのに「食べたい」と言えなかったんです。

なんでかというと、
無駄に大人ぶっていたからです。

当時は、『子どもっぽくギャーギャー主張しない方がカッコいい！』と思ってました。

いや、子どもなんですけどね。
子どものくせに、子ども扱いされるのが何より嫌でした。

だから、自分の気持ちをさらけ出して
「買ってー、食べたいー！！」ってお願いするなんて
とてもじゃないけど、恥ずかしくてムリでした。

本当に、何度でも思うけど、
可愛げのない子どもでした。。

おばあちゃんにとっては、
可愛い孫にソフトクリームの1つでも買ってあげたかったに違いないです。

おいしい！！
と、喜ぶ顔が見たかったに違いありません。

けれど、私が変に気を使って遠慮したことで、
おばあちゃんはいつも
「そうかね・・・なら仕方ないねえ」といって
残念そうに、開きかけた財布を閉じていました。

私は、おばあちゃんが300円使わずに済んだのに
なんで残念そうな顔をしているのか、わかっていませんでした。

そういう場面で、
素直に欲しいものを欲しい！といえるのは、
いつも妹でした。

私が我慢しているすぐそばで、
妹はいとも簡単に
「ソフトクリーム買って！」っておばあちゃんに言っただけなんです！！

私はそういう時必ず、

『私はガマンしてるのに！』と、心のなかでイライラしてました。

隣で、妹だけが美味しそうに、

ペロペロとソフトクリームを舐めているのです。

今更欲しいともいえず黙って見ていました。

おばあちゃんは「おいしいかね、よかったねえ」といいながら、

買ったばかりの二つ折りの携帯を取り出しては、

おぼつかない手つきで、写真をとっていました。

おばあちゃんの写真はいつもブレていたのを思い出します。

私がかわりに撮ってあげればよかったんだけど、

そんな余裕なんて全然ありませんでした。

ずるい、ずるい、ずるい！！！！

自業自得のくせに、

妹だけ手に入れたソフトクリームが羨ましくて仕方なかったんですよ。

こんな感じで、

しょうもないプライドがいつも私の邪魔をしてました。

ちっぽけなプライドを守るためだけに、

何をあんなに躍起になっていたんだろう、、

それで結局、
いい思いをするのは決まって妹なんです。

母親に対しても、妹は上手で。
それがまた悔しくて、、笑

妹はいつも、引くところでは引いて、
わきまえて甘えていました。

いつもは大人しくしていて、
ときどきちょっと甘えるんですよ。

いつも静かに良い子してるから、
たまのことだし、と母親もそれを許してました。

その手段で妹は次々と、
シールとかぬいぐるみをゲットしていきます。

それを私は妬んでたし、
妹が羨ましくて仕方ありませんでした。

不器用な私とは正反対で、
器用に動いていつも得しているんですよ。

何であんなに甘え上手なんだろう。。
と、心の奥底ではずっと感じていたし、

「妹みたいになれたらなー」
と思ったことも何度もありました。

すっごく悔しかったです。

けどプライドが高かったのも、
妹の方がすごいと認めることなんて出来ません。

それどころか、
「私のほうが大人だし！物とか別にいらないし！」とさらにひねくれました。

最悪です。
ひねくれていいことなんて何1つありません。

ひねくれるということは、
自分の気持ちに素直になれないということです。

これは、
一度ひねくれた経験がある人なら
分かってくれる感覚かと思いますが、

ひねくれると、
ほんとに何事もできなくなります。

つい強がってしまう。

甘え上手の人ばかりいつも得して、
自分は何やってもうまくいきません。

それが悔しくて、言い訳して、またひねくれます。

こうして私は、
ひねくれのエンドレスループに陥りました。

3. 「消しゴムかして」と言えずに起こった悲劇

小学校のクラスでもずっと
「真面目だけどもめっちゃ大人しい子」ポジションでした。

大人しいとかいうとまだ聞こえがいいけど、
要するに不器用こじらせて何にも会話できなくなっただけです。

誰に対しても自分からは話しかけないくせに、
誰かに話しかけてほしいなあ、、と常に受け身で待ってました。

小4か小5の頃、**好きだった男の子**がいたんですが、
その男の子ともうまく話せませんでした。

ある時、その子と偶然席が隣になって、
「やったあ！！チャンスだから話さなきゃ。。」とか思ったんですが、
緊張して恥ずかしいとかいう以前に、
何話したら良いかわかんないんです。頭真っ白です。

普段から人と話してなすぎて、
必要最小限のこと以外なにも思いつきません。

いや、必要最小限のことすら話せなかったかも。。

私が消しゴム忘れたときも、
隣のその男の子に「消しゴムかして」っていうのすらできなかったですから
ね。

普段まったく話さないから、
いつどんなタイミングで話しかけて良いのかまったくわかりません。

今忙しそうだから話しかけちゃダメかなー。
とか、そういうのが気になって気になって仕方ないんです。

相手に気をつかっているようでいて、
そういうわけではありませんでした。

「今忙しいからごめん」って断られるのが怖かったんです。
よく考えたら消しゴムくらい断るはずないんですけどね。

で、しょうがないから、
鉛筆についてるちっちゃい消しゴムでゴシゴシ消してた記憶があります。

あれね、全然消えないですよ、びっくりするくらい。
消しても鉛筆の黒色がびゃーって紙に広がるだけです。

だからなるべく、間違えないようにするんだけど
やっぱりどっかで間違えます。

そしたらまた黒色がびゃーって広がります。
辛いです。

**消しゴム忘れたくらい言えよ、って話ですが、
恥ずかしいんですよ、なにもかもが。**

恋愛とか言う前に
友達にすらなれません。

そのまま1ヶ月たってまた席替えがあって、
何にも仲が深まらないまま終わりました。

残念すぎます。

それからしばらくして、
その男の子が、Yちゃんという女の子と
両思いだというウワサが流れました。

**yちゃんは素直で明るくて
クラスみんなに人気がある子。**

**私とは真逆です。
まぶしいです。**

けど、羨ましい！と素直に認める余裕もなかったので、
「あの子はうまれつき可愛いからしょうがない」と外見のせいにしてました。

超ダサイですね。
けど、そうするしか自分のプライドを守るすべがありませんでした。

こうして、ひねくれていたことで友達すらできず、ましてや恋愛なんてできず、
人間関係に対してどんどん自信を失っていきました。

そんな私の心にトドメを刺したのが
修学旅行での幽霊事件です。

4. 修学旅行で偶然耳にした、クラスメイトの残酷な一言

忘れもしない、
中学校2年生の修学旅行。
前日は、ワクワクして眠れませんでした！！

2泊3日で広島・岡山に行きました。

みんなで新幹線に乗って。

毎日同じことの繰り返しの中学生生活だったので、
このイベントは絶対楽しもう！！と思って行きました。

1日目は広島観光、
2日目は岡山の離島にいて釣りや漁業体験をしました。

どれも新鮮で楽しくて、あとは帰るだけ！となっていた
2日目の夜。

民宿の食堂で夕食を食べた後、
私はたまたまはやく食べ終えたので、
みんなより先に部屋に帰って、待ってたんです。

5分～10分も立たないうちに、
クラスメイトの女子3人が部屋に戻ってきました。

「...そうそう！！.....マジ！？」

「あはははは！！！」

「わかるわかる！！！」

内容までは聞こえないけど、
3人は何やら話しているようでした。

中学になってもあいかわらず人気だった
Yちゃんの声もしました。

部屋の戸をあけ、
中に入ってきました。

うち1人は、
やっぱりYちゃんでした。

Yちゃんと、
その友達が何やら話しています。

部屋の奥に私がいるのに、
3人は全然気づいていないようでした。

ちょっと広いつくりの部屋で、
奥の扉の陰にいたので気づかれなかったのです。

そこで、3人に、「戻ってきたの？」と話しかけようとした瞬間。
衝撃的な言葉が私を待ち受けていました。

3人とも、こそこそ口調で、

「てか、まみちゃんって何を考えてるのかわからないよねー」

「そうそう、無表情だし」

「なんかさ、幽霊みたいじゃない？」

「それまじうけるー！！」

・・・幽霊！？！？

あの明るいYちゃんにすら、
裏ではそんなふうに使われてたなんて。

ショックで泣き出しそうでした。

その時Yちゃんはこっちに気づいて、
目が合いました。

むこうはその一瞬、
「しまった」とはっとした顔をしてました。

私はこぼれかけた涙をこらえました。
ぐっと唇を噛みしめて。

『泣いたら負けを認めたのと同じだ』と思ったからです。

それで、できるだけ自然を装って、
幽霊のことは、一切聞こえなかったフリをして
「あ、戻ってきてたの？」と声をかけました。

Yちゃんたちは気まずそうに
「あ、まみちゃんいたんだ・・・！
幽霊みたいってのは、まみちゃん肌白いから・・・！！」
って苦笑いして誤魔化してました。

私もなんとか笑顔でかえしましたが、
引きつっていたと思います。

いつも笑顔で話しかけてくれていたYちゃんが、

本当はこんなこと思ってたんだ。

辛すぎてその場にいられませんでした。

**Yちゃんがむかつくというよりも、
自己否定感がやばかったです。**

『他のみんなも心ではそう思ってるんだろうな。
もっとYちゃんみたいに明るく話せるようにならきゃな...』と、
自分を責めて責めて責めまくりました。

もう修学旅行のことなんて忘れて、激凹みです。

そうして、部屋を出て、
宿を歩きまわって、
一人になれる場所を探しました。

部屋に戻っても、
その夜は、なかなか眠れませんでした。

この時初めて、
私は自分の気持ちを表に出さなすぎるんだ、と気づきました。

例えば、
好きな人に好きと言ったら、恥をかきますよね。

誰だって嫌です。

けどみんなそれを乗り越えてくじゃないですか、どこかのタイミングで。

私はそれが全然乗り越えられませんでした。
恥ずかしくて恥ずかしくてムリでした。

**確かに、気持ちを外に出すのは怖いです。
誰かとぶつかったり、自分を否定されたりするかもしれません。**

**それは誰だって避けたいし、
私も避けていました。**

しかし。

誰とも争わないかわりに、
クラスメイトに「何考えてるかわからない」と距離を置かれてしまいました。
た。

なんでこんなふうにならなきゃならないんだー！とむかつきましたが、
Yちゃんの言っていたことは凶星でした。

Yちゃんに対してというよりも、
弱い自分にイライラしました。

5. 恋どころか恋バナすらできなかった

高校へと進学した私は、
なるべく自分の気持ちを外に出すように心がけました。

それでもやっぱり、どうしても、
自分の思ったことをいえませんでした。

**好きな人ができても、
誰にも内緒にしていました。**

私だって友達に

「どうやったら彼氏できるかなー？」とか、相談したかったですよ！！

けど、

なんで好きな人友達に明かせなかったかというと、
自分に自信がなかったからです。

「えー、まみちゃんには無理だよー笑」って、
笑われるんじゃないかと思ってました。

一番の親友にすら、
好きな人を打ち明けられませんでした。

恋バナとか、超レベル高いですからね。

みんな当たり前にしてましたが、

「よく自分のことそんなベラベラ話せるな。」と信じられませんでした。

好きな人にアプローチしたり、告白したりする以前に、
友達との恋愛トークすらできなかったんです。

とはいえ、クラスみんながキャイキャイ女子っぽい会話してるのは、羨ましくてしょうがなかったです。

私もその輪の中に入れて行きたかった！！
けど、そうなったら、
私も好きな人の話をする流れになっちゃうじゃないですか。

それは嫌だった。
何としても避けたかった。
恥ずかしいから。

普通に好きな人はいたんだけど、
絶対誰にも言いたくありませんでした。

あんまりにも私が話さないから、
「まみちゃんは恋愛の話タブー」みたいに思われてたかもしれません。

学校の帰り道でも、
一緒に学校から帰っていた仲良しの3人がいたんですが、
誰ひとりとして私に恋愛の話題を振ってはきませんでした。
(華の高校生が、恋バナをせずして何を話していたんだろう...)

そして、私が人にオープンに話さないので、
まわりも私に話してくれません。

誰とも恋愛の話をしてなかったのに、
「あのカッコいい先輩は誰を好きなのか？」とか、
そういう情報は一切知りませんでした。

部活の友達がみんな
「誰が誰と付き合ってるんだって〜」ってコトを知ってるのに、
私だけ知らないってことがしょっちゅうでした。

ぜんっぜん話題に入っていけません。
疎外感がやばいです。

けど、「それ、私知らないよ！！」
と言うのも恥ずかしいので、知ってるふりして黙って聞いてました。

こうやって、
プライドが高いとどんどん知ったかぶりになります。

けど知ったかぶったところで
私は何にも知らないわけです。

小学校のころからの親友に
彼氏ができたときすらも、私は何にも知らなかったですからね。

その子とは一緒に帰っていたんですが、
ある日突然、
「私、今日から一緒に帰れないや、ごめん」といわれて驚愕しました。

いつのまに彼氏できたの！？
好きな人いることも知らなかったんだけど...！！！！

ショックでした。

客観的にみたら、
それ親友っていうの！？って疑うレベルです。

それもこれも
私が普段から自分のことを話さなかったせいです。

恋バナができなかったのはなんでかというと、
その時の私は【自己承認欲求】がめーっちゃ高かったからです。

ちなみに自己承認欲求というのは、
「誰かに自分のことを認めて欲しい！」という、人間なら誰しも持っている
欲求のこと。

好きな人に可愛いと思われたい！とかもそうです。

そういうレベルなら可愛いんですが、
私の場合はあまりにも承認欲求が高すぎて恋に支障きたしてました。

何をするにも相手にどう思われるか？が基準になってて、
恥かいたら一巻の終わりだ！とっていました。

実際は、たとえ私が恥をかいたとしても、みんな夜寝る頃には忘れてます。
他人の失敗なんてそんなずっと覚えてません。

だから恥なんて捨てて、
本音で話してればよかったんですよ。

その頃にほんのすこしでも
自己承認欲求をなくしていたら、
どれだけ青春を楽しめたか！！！！

ほんっとに、
恋も恋バナも何にもできなかつたですよ。

つまんなかつたなー。

私のプライド高すぎ生活は、
大学に入っても続きました。

6. 大学でカッコつけて意識高いアレを試してみた

大学に入ってから私は
迷走していました。

きっかけは1年生の時のあるイベントです。

有名な起業家が集まるイベントが
慶應で開催されていて、それにふらっと行ったんですね。

暇だし近いしいってみるかー、
くらいのノリでした。

行ってみたら、
広い会場のステージにIT起業家がぞろぞろ登壇して、
「私は、このアプリでイノベーションを起こしました！！！」とか
「夢を持とう！人生は一度きりなんだー！！」とか
そういうことを熱く語っていたんですね。

客席のはじっこにいた私は何を思ったかというと、

「超カッコいい！！！！私もこうなりたい、、けど、
こんな斬新なアイデアってどうやって出すんだろう、、」

憧れと、戸惑いが入り混じった感情でした。

**起業に憧れはしたんだけど、
何をしたらあなれるのか皆目検討できなかったのです。**

そこでとりあえず、
大学2年生のときにビジネスコンテスト（ビジコン）にでてみました。

ビジネスをいきなりやって失敗したら恥ずかしい。
だから「まずはビジネスの練習だー！！」と思ったんです。

練習なんてするよりも、
リスクのないビジネスなんて
腐るほどあるんだから、まずそれから実践してみなよ、ってツッコミたいで
す。

けど、
当時は、

恥=死

という価値観だったので、
いきなり何かにチャレンジするとかムリでした。
失敗して恥かくのを恐れていました。

だから、とりあえず
友達に誘われて知ったビジコンにでてみました。

ビジコンでは参加者4人で1チームを組んで、
3日間でビジネスのアイデアを考えて競い合いました。

そのときのテーマは、
「医療×アプリ」でした。

アプリを使って何か医療に関するビジネスを作りましょう！！
ってのが課題だったんです。

今思えば突っ込みどころ満載です。
そもそもなんでアプリ使うことが必須なの？って話です。

ビジネスを考えるときに、

「アプリを使ったサービスを何か作ろう！」って発想って
実際のビジネスの現場ではムダな縛りでしかないわけですが、、、

そこからじゃなくて、

まず「誰のどんな悩みをどうやって解決するのか？」を考えるべきだったん
ですよ。

あるいは、「需要を創出する」というところから考えることもできますが、
ここでは省略します。

何が言いたいかというと、

あの時のビジネスコンテストはテーマからしてむちゃくちゃで、
完全におままごとでした。

けどそれすら私にはわからなかったので、

「これがビジネスなんだ！ビジネスって難しいなあ」と、
余計わけわかんなくなりました。

「アイデアでなーい！やばいやばい」

と、チームの4人で深夜まで作業し、

マクドナルドで悩み苦しみがいたのはいい思い出です笑

そりゃ、でないですよ！

でなくて当たり前です。

「アプリを使った医療のサービスを作ろう！」っていったって、
ビジネスの全体像を知らない状態では
なに1つ思いつくはずがないですからね。

リサーチの方法も知らなければ、
集客の方法も、
マネタイズも、
なーんもわかんなかったです。

というか、そういう概念があることすら無知でした。
「ビジネスはアイデア勝負だ！」と誤解してました。

だからユーザーのウォンツもニーズもガン無視して、
「いかに斬新なサービスを作るか？」ばかり考えてました。

会議も会議になりません。
例えば、こういう感じ。

- A 「こういう動画サイト、今までにない？」
- B 「確かに～！面白いね！！これならユーザー100万人いくかもね」
- C 「いや、それよりもUIをもっとカッコ良くしたほうが...」

これ、一度そういう意識高い系イベントにでたことある人なら
「あるある！！！」っていつてくれるんじゃないかと思います笑

誰も正解がわかんないので、永遠に不毛な議論をしてました。

けど、それが気持ちよかったです。
**何もないまっさらなノートにどんどんアイデアを出していく作業が、
まさにベンチャーって感じでカッコいいな！**とと思ってました。

起業とは、Facebookやtwitterみたいな、
斬新なウェブサービスを開発してイノベーションを起こし、
全世界に展開すること！！って思い込んでましたからね。

めっちゃ視野狭かったなあ。

結局そのビジネスコンテストで、
何を作ったかというと、何も作れませんでした。

やばい！なんにも発表できない！どうしよう！！
とチーム全員で焦りましたが、
結局そのままタイムアップ。

私達の班は、
「今はまだ企画中ですが、アプリを使って世界にイノベーションを起こしまー
す！！！」
って勢いでごまかすしかありませんでした。

他の班も同じようなレベルでした。

審査員の大人たちの、
あのつまんなそうな表情は忘れられません。

私にはアイデアを出す才能がないんだーと分かって、
めっちゃ悔しかったです。
背伸びしてビジネスコンテストにでたことを後悔しました。

ビジネスはアイデア勝負ではない。ってことを知ってれば、
あんなに落ち込むことはなかったはずですが、
当時の私にはそんなこと知るよしもありませんでした。

もう私なんて何やってもだめなんだーと**卑屈**になって、
なにをしても楽しく思えませんでした。

そんなとき、
なにげなくインターネットサーフィンをしていて、
たまたま「ブログは稼げるらしい」という情報を見つけました。

7. 稼げると聞いてブログをはじめたら大失敗

そんなとき、
なにげなくインターネットサーフィンをしていて、
たまたま「ブログは稼げるらしい」という情報を見つけました。

飛びつきました。

ブログ！？ブログって、あの日記みたいなやつだよね。
それなら私でもできるかも...

そのブログによると、

どうやら、「個人でお金を稼ぐには、ブログで情報発信力をつけるのが一番の近道」ということでした。

私は、大学に入ってから時給900円の飲食店やビラ配りなど、単発のアルバイトをしてお小遣いを稼いでいたので、「うそやる、そんなわけはない、、」と疑いながらも、その記事に釘付けになりました。

「家でブログを書くだけで働かなくてもお金が手に入る」だなんて、怪しいニオイブンブンじゃないですか。

しかも、ウェブサービスを開発するの比べるとブログって、めちゃめちゃ地味です。

数百円ならともかく、**数十万円、数百万円をブログで稼ぐなんてあり得ないと思いました。**

ただ、私は何か新しいものをみたときに偏見や先入観で判断するのがキライなので、

自分の手を実際に動かしてやってみるまでは、怪しいから駄目だ！と決めつけることはできないタチだったんです。

で、とりあえずブログ作るだけならタダだし、と思って、アメブロに登録しました。

で、何を書こうかな～と迷っていたんですが、
ちょうど、カロリー制限で15kgのダイエットに成功したあとだったので、
ダイエットのブログを作りました。

こうやって書くと、
順調に見えるかもしれませんが、全然そんなことはなかったです。

ブログって、
インターネットで全世界に公開されるんですよ。

怖いじゃないですか。

もしかしたら、
地元の友達に発見されて読まれるかもしれない...
それは絶対嫌だ！

と思うと、
何を書いたらいいか全く分からなくなって、頭真っ白です。
ネタが全然思い浮かばなくなりました。

けどそこで、
そうだ、本名じゃなくてハンドルネームにすればいいんだ。
ということに気づきました。

それで適当にハンドルネーム考えて、

ブログを作りました。

ここまでは良かったのですが、
いざ記事を書くとなると、筆がすすみません。

匿名なのに、
他人にいい人に見られたい！モードに突入。

これ言ったら読者に嫌われるかな...
いやでもこれ言ったら反対する人いるよな...

とか
考えてたらキリがなくて。

「嫌われないように」ってめっちゃ気にしてました。

そんなんだから、
1つ書くのに何時間かかっているんだ？
ってくらいかかります。

書いても書いても
まったく書き終わりません。

なんとか1記事書き終えるころには、
「もうブログなんて嫌だ！無理だー！」と疲れきってしまいました。

しかも、
あまりにもまわりに嫌われないように気をつかいすぎたせいで
ブログの内容が、めー——っちゃんないんですよ。

道徳の授業みたいなブログ。
「過度なダイエットするのは身体によくないので、気を付けましょう♪」とか
書いてました。

そんなん誰でも知っとるわー！！
と、昔の私にツッコミを入れたいです。

超つまないじゃん！
そりゃーアクセスこないよ！
誰も読みたくないもん！！

実際あのときは、
頑張って何記事も、何記事も書いたのに、
ぜんぜんアクセスがこなくてしょげてました。

なんでアクセスこないんだろう？
いい情報を提供してるのに...と不思議でなりませんでした。

いくら役立つ情報を提供しても、
つまんなけりゃそれはゴミです。見向きもされません。

そのことを知りませんでした。

その証拠に、
アクセスが1日2〜3もきませんでした。

アクセス解析の画面みて毎日絶望してました。
なんでアクセスがこないのか、本気で分かりませんでした。

頑張ったのに成果でないわ、成果にならない理由もわかんないわで、
ただひたすら悲しかったです。

しかも、「なんなんだよー！！！」とイライラして、
お菓子ドカ食いしていたら、みるみるうちにリバウンドしました。

ダイエットブログのブログ主がデブになってどうすんだー！
せっかく15kg痩せてたのに台無しです。

そもそも、
なんでつまらない記事になってたか？
というと、本音で書いたら読者に嫌われると思ってたからです。

だから誰にも嫌われないような、
当り障りのない無難な記事を量産していました。

けど結果は、
つまらないから誰にも読まれなかったんです。

私の人生、
変なプライドのせいでカッコつけて損しすぎですね笑

少なくとも、1年前にビジネスを本格的にはじめるまでの
21年/22年はひねくれてましたからね。

これまでのうち95%もの間、
素直になれなかったことでソンしてきたということかー。
しまったなー。

仮にこれが趣味だったらいいですよ。

趣味としてのブログなら、
自分の書きたいことを自由に書いていけばいいだけです。

けど「資産としてのブログ」を作るのであれば、
無難な記事をかいても誰にも読まれません。

それよりも、
本音で書いたほうが面白いです。
リアルな記事ほど読まれます。

そこで仮に変な文章を書いちゃったとしても、
なんのダメージもありません。

だって読んだ人からしたら、
つまらなかつたらつまらなかつたで
「ふーん」とブラウザバックして終わりです。

どんだけ最悪な文章をかいて公開したとしても、
相手には一瞬で忘れ去られるだけなのです。

それが理解できていなかったのも、
カッコを気にするあまり、成果が全然でませんでした。

8. ビジネスは人の心を理解するのがすべて

そうこうしている時に、
あるビジネスの先生に出会い、
私は「人の心」を学ぶことになりました。

具体的にいうと、
心理学をベースにした「コピーライティング」という技術です。
これを基礎から徹底して学びました。

コピーライティングっていうのを
最初に聞いた時は
「コピーライティングって、電車のつり革広告とかに載ってる
一言を考えるやつだよな？それがなんの役に立つの??？」

って思いましたが、違いました。

私の学んだコピーライティング術というのは
もっと広い意味でのコピーライティング。

ひとことでいえば、**言葉の技術**です。

言葉はみんな使ってるものなのに、
言葉を正しく学ぶ機会ってないですよ。

学校でも教えてくれません。

私は、学校の作文がずっと苦手だったし、嫌いでした。
作文の原稿用紙1枚埋めるだけでヒイヒイってました。
10枚とか書いてる友達がいる、天才か！と思いましたもん。

当時は書き方なんてわからなかったし、
書き方に型があることすら知らなかったです。

先生に聞いても教えてくれませんでした。
それどころか、「自由に書きましょう」って教わりました。

自由に書く？かえってむずかしいよー！
原稿用紙半分も埋まらないよー！！とパニックになってました。

今思えば、型もないのにゼロから何かを生み出すなんてハードすぎます。
守破離の守を、まずは知りたかったのに。。

とはいえ、先生だって、
先生の先生に「書き方」なんて教わってないから、教えられないんですよ。

先生が悪いわけではなく、学校のカリキュラムの問題です。

「自分の言いたいことを一番伝えられる文の構成」とか、
そこまで突き詰めて教えてくれる学校なんて、みたことがありません。
個人的にはとても残念ですね。

学校では、書き方よりも、内容がすべてでした。
道徳的でいい子っぽいことを書いてれば、先生に褒められた記憶があります。

個性や、面白さなんて求められていませんでした。

だからこそ最初にブログを作って書いた時に、
超つまらない文章になってしまったんです。

何を、どうやってかいたら、
読者が読みたくなるような面白い記事がかけるか？なんて
ちっともわかってませんでした。

ただ無難な記事を書き続けていました。

自分の記録のためにブログを書くだけならそれでいいけど、
読者を集めてビジネスするならそれでは厳しいですよ。

こうしてブログを諦めかけ、途方にくれていた頃に、
私はコピーライティングという概念に出会いました。

ある冬の寒い日、ビジネスの先生が、私を含む生徒数人を事務所に呼び出して、1から丁寧に教えてくださったんです。

私たち生徒は、思わず目を見合わせました。

「なんだこれ！もっと早く知っとけばよかった...！！」と、そこにいた全員が、雷に打たれたような衝撃を受けたのです。

これが、はじめて言葉について真剣に向き合った瞬間でした。

話すときも、書くときも、なんとなーくで言葉を使っていたことをもったいなかったな、と強く感じました。

家に帰って、さっそくコピーライティング術を使ってブログを書いてみました。

とはいっても、ある言葉1つを意識して使っただけです。

そうしたら、これまでピクリとも動かなかったPV（ページビュー）のグラフがドカンと伸びた。読者が増えたのです。

正直ちょっと怖かった。
うわうわうわ、こんな変わっちゃうの？と。

けれど、それがとんでもなく快感でもありました。

それまでは、
「私なんかに他人の心を動かして、人を集めることなんてできない」
って決めつけてたけど、そんな固定観念はボロボロと崩れ落ちました。

**言葉1つ変えるだけで相手の反応がガラッと変わるなんてことが
普通に起こるんですよ。**

革命でした。

その後も、コピーライティングを学べば学ぶほど、
目に見えて読者が増え、コメントがついていったんです。

ぶっちゃけ、
楽しくて楽しくて仕方なかったです。

それで言葉というものにのめり込んで、また勉強しました。

と同時に、
人の心を理解していないとコミュニケーションはうまくいかないなあ。
ということをひしひし感じました。

ブログだって、コミュニケーションですからね。
読者と書き手（私）のコミュニケーションです。

だから言葉の技術がないと、つまんなくなります。

いくら頑張って100記事書いても、
つまんなければ価値提供はできません。
それどころか、相手の時間を奪ってしまいます。

昔は「稼げないよー！なんでだー！！」と嘆いていたけど、
相手の時間奪ってるのにお金入ってくるわけなかったよなあ。

ちなみに私がコピーライティングを学んだときは、
まず最初に、【人の心を理解すること】からはじめました。

言葉で人の感情を動かす（面白いと思わせる）には、
まず、
人はどういうときに面白いとを感じるのか？を知らないといけないですからね。

**人の心を理解して、
その上で適切な言葉選びをできるかどうか？**

そういう技術を1つ1つ学んでいきました。

そもそも心の仕組みが分かってないと、
文章で相手を感じさせて、
固定読者になってもらうなんてできません。

その証拠に、**一流の小説家はすべからく、
人の心を徹底的に学んでいます。**

彼らは皆、狙って人を感動させることができるし、
それができるからこそ、
その人の作品が読みたくて読みたくて仕方がないファンが生まれるんです。

ビジネスは人の心を理解するのがすべてです。
言葉は武器といっても過言ではありません。

言葉の力でファンを獲得していかなければ、
どのビジネスをやったとしても無残な結果になってしまいます。

何のビジネスをするにせよ、人と人が関わっている以上、
コミュニケーションが発生しますからね。

それは、
ラーメン屋さんを開くにしたって同じです。

売ってるものはラーメンだけど、

最初にお店に入ろう！と思うきっかけは
看板だったり、チラシだったりの「言葉」なわけです。

だから、コミュニケーションがうまくいかないと
お客さんを集められず、いとも簡単に潰れてしまいます。

**逆に、人の心を正しく学びさえすれば、
ビジネスは驚くほどカンタンになります。**

ちなみに、
コピーライティングって難しそうに聞こえますが、
知ってしまえばカンタンです。

私自身、コミュニケーションなんて、昔は大の苦手でした。
人の心なんて絶対理解できないだろうなと思っていました。

けれど、
やってみたらそんなことはありませんでした。

理解しやすさでいえば、
中学校の数学より100倍カンタンでした。

習得にも、
そんなに時間はかかりません。
1ヶ月もあれば全体像は把握できてしまいます。

たった1ヶ月でビジネスが良くなるスキルなんて、他にありますか？

こんなにコスパの良い技術はないな、と心底思います。

「心を理解するなんて、無理でしょ」と思う人がいるかもしれません。

確かに、人の心は複雑なので、すべてを100%理解するなんてことは不可能です。

それをしようとも思いません。ただ、科学的に解明されている部分も実は大きいのです。

それを上手く使うことで、ほんの1%でも相手の心を動かすことができれば、ビジネスをするときに2倍も3倍もラクになります。

9. 革命だー！！ブログの読者ってこうすれば増えるんだ！

コピーライティングを使ってブログを書いていたら、感情を上手く伝えて相手の心を動かせるようになったおかげで、私にも固定の読者さんができるようになりました。

はじめて自分のブログにコメントがついたときは
スクリーンショットを撮って保存するくらい嬉しかったですよ！！

「面白いですね！」かなにか、たった一言でしたが、
自分の書いたことに反応があるのはここまで嬉しいものなんだなーと！

コピーライティングに出会ってなかったら、
このたった1コメントすらもらえなかっただろうな、と考えると、
学んでなかったらやばかったなー。と改めて思いました。

それからは、ライティングスキルを高めれば高めるほど
PVが伸びていったので、
仕組みをつくって収益化していきました。

「私、やればできるじゃん！！！」

結果がでると同時に、
自分に自信がついていったのを覚えています。

まさか、
幽霊といわれるほど何考えてるか分からないと言われた自分に
「次の発信を楽しみにしています！」というファンができるなんて、
想像もできなかったことですよ。

昔の私が今の私をみたら、

誰これ、私！？ってポツカーンとすと思います。

それぐらい変わりました。

そして、なにより。

自信がついたことで、びっくりするくらい素直になりました。

今までは自分の心のうちを

さらけ出すなんて絶対できなかったのに、、

人ってこんなに変わるんですね。

匿名のブログとはいえ、

最初は自分のことを書くななんて怖くてたまらなかつたですもん。

けど今は、

本音をそのまま書けるようになりました。

**カッコつけた記事をかいてた時もありましたが、
まったく無意味だと思えます。**

ありのままの自分をさらけ出さないと

まず、リアリティがなくなります。

中身が伴ってなけりゃ単純につまんない記事になるし、

一瞬で見ぬかれます。

そういう記事を昔は書いてしまっていたから、

読者が1人もできなかったんですよ。

(今はそのブログは消してしまいましたが、記事は保存してあります。

時々見返して初心にかえっています笑)

素直になれたことは、自分の中では大革命でした。
幼稚園児のころからひねくれまくってましたからね。

ブログとはいえ、
自分の気持ちをさらけだせるようになったんです。
すごい変化ですよ。

それがなぜできたかというと、
コピーライティングを使い始めてから
私の発信を読んでもくれる人が明らかに増え、「**自信**」がついたからです。

「読者増えたらどう見られるかを意識するようになるんじゃないか？」
と思うかもしれませんが、そんなことはありませんでした。

読者が増えて自信がついたことで、
「**相手が自分のことをどう思っているか？**」なんて、どうでもよくなったん
ですよ。

今まであれほど自意識過剰だったのがバカみたいに思えて、
承認欲求がみるみるうちに減っていきました。

それに、何か意見をいったところで、意外と否定されないなあ。
ということも知りました。

もし否定されたところで、
その人とは付き合わなければいいだけですからね。
失うものなんてなにもありません。

そう考えると気が楽になって、
積極的に気持ちを伝えられるようになりました。

そうしたら、ブログで意見を言えば言うほど、
それを受け入れてくれる人、
つまり、価値観の合う人が私のもとに集まるようになりました。

承認欲求をゼロにしたことで、
かえって、まわりに承認されるようになったんです。

こうして私は、
「言葉」を上手に使った結果、
「自信」を手に入れました。

私が正直に発信することで、
共感してくれる読者がどんどん集まったのが単純に嬉しかったし、
ビジネス上もいいことばかりでした。

それでまた自信がついて、
もっと素直に発信できるようになりました。

素直になればなるほど
また共感してくれる人が増えて、ファンがついて行って、、、と、
良い循環がうまれていきました。

長年私がコミュニケーションに苦手意識を持っていたのは

変なプライドを気にしすぎていたからです。

プライドを捨ててからは、何も怖くありません。
ネット上では無双です。

じゃリアルの中では
どうだったかというと・・・

10. コミュニケーションに才能なんてない!!

コピーライティングを学び始めて数ヶ月がたった頃、
ある人に招かれてとある懇親会に参加しました。

ただでさえ初対面の人が苦手な上に、
それまではビジネス関連の懇親会にはほとんど行ったことがなかったので、
ド緊張して会場に向かいました。

すごい人がたくさんいるんだろうな...
と、思うと心臓がバクバクして、
お腹がぎゅーっと痛くなりました。笑

それでもなんで行ったかというと、
面白い人に出会いたかったからです。

私がビジネスをしているのは、
お金や自由な時間はもちろん、
面白い人に出会う確率をあげるためでもあります。

その集まりは、
実力を持った人ばかりが集まる会だったので、
緊張しながらもワクワクしながら会場に向かいました。

その日は立食形式の軽いパーティーのような感じで、
30人くらいの方が集まっていました。

こういう会は苦手だなあ、、、
と思いながら、会場の隅っこでウーロン茶を飲んでいました。

ある年配の男性に話しかけられました。

それで、しばらく会話していました。

確かコピーライティングの話だったかな。

ちょうど学んで、サイトで使い始めたばかりだったので、
その感動を伝えるべくべらべら私がずっとしゃべってました。

すると、その人は「なるほどー」とうなづきながら
スマホを取り出してメモをとりはじめたんです！

**私よりずっと年上の方が
私の話のメモを！？！？**

一瞬理解に苦しみました。

「勉強になります、ありがとうございます！！！」と言われ、私は思わずキョトンと間抜けな顔をしてしまいました。

私はコピーライティング術を学んで
当たり前のように実践してきましたが、
そんなにすごい技術だったのか！！と改めて思い知らされました。

**自分の話にみるみるうちに、
目の前の相手が引き込まれていくのが見て取れて、正直楽しかったです。**

それによく考えたら私、
初対面の人にこんなにもべらべら話せたことなかったよな一と、
後から気付きました。

素直に自分の体験をブログに書く癖がついていたので、
失敗談を素直に話すことになんの抵抗もなくなっていたんです。

今までだったらそんなこと、
恥ずかしくて絶対にできなかったですよ、
カッコ悪い部分は全部隠す！っていうのが昔の私でした。

その状態のままだったら、

絶対にあの懇親会でであった男性に話をするなんてことはできませんでした。

むしろ、話をずっと聞いている側になっていたはずです。

ましてや、うんうんとうなずきながら
メモをとられるなんてことは絶対にありえなかったです！

けどあの時は、
承認欲求が吹き飛んでいたのも、
相手にどう思われるか？なんて一ミリも考えずに話せてました。

何を言ったら楽しんでもらえるかな？
この話をしたら面白いかな？
っていうのをフル回転でずっと考えて話していました。

自分の失敗を話すのも、
相手のためになるのならとすべてさらけ出しましたね。

ブログを書くときと同じです。
相手を楽しませたり、喜ばせるために発信していました。

リアル場で、しかも初対面の人相手に、
無意識のうちにできていたのには、自分でもびっくりしましたよ。

そうやってしゃべりまくったら、
帰り道で、その男性が駆け寄ってきて、
「今日は本当にありがとうございました！」と声をかけてくれました。
家に着いてからもFacebookでメッセージが来て、相当感謝されました。

**「相手に価値を提供するってこういうことか！」と、肌で感じたはじめての体験です。
自分が先生になったみたいで、なんだかドキドキしました。**

振り返ればあれが
はじめての「コンサルティング」でしたね。

もちろんあの時はお金をいただいたわけではないですが、
いつのまにか自分に、
相当な価値を提供するスキルが身についていたことを知れました。

承認欲求が下がっていてよかったなーと心底思います。

**プライド高いままだったら、黙りこくって、
何にも提供できなかったに違いありません。**

また別の集まりに行ったときには、
初対面の人と話していたら
「ぜひコンサルティングをして下さい」という話になることもありました。

懇親会には遊びにいっただけで、
売り込みをしに行ったわけでもなんでもなかったのですが、
話をしていただけで意図せずしてお仕事につながったんです。

私の話を聞いて、
価値があると感じてもらえた証拠なので、単純に嬉しかったです。

その方は、一回りも年の離れた女性の方なのですが、
年齢関係なく素直に学ぶ姿勢が素晴らしいな、と思ったので喜んで受けることにしました。

私はあまり懇親会のような場所に行くことはないのですが、
たまに行くとき毎回何かしらの出会いがあります。
私が素直になってなかったらこんな風にはいかなかったです。

他にも、価値観の合う人と会で仲良くなって、
会が終わってからも関係が続く...というのが起こるようになりました。

何を当たり前の事を言ってるんだ？
と思うかもしれませんが、
私にとってはそれがすごく新鮮なことだったんです。笑

いかにこれまで自信がなくて損していたか、
痛いほどよく分かりました。

昔は、恥ずかしい、怖い、と怯えて、
自分のプライドを守ることに必死だったので、
人に深く話をしたり、何か情報を提供したりする視点がゼロでした。

だから浅い付き合いしかできなかったのです。
その場限り、ちょろっと会話して終わってしまうようなことがザラでした。

「この人面白そう！」と思う人がいても、
話しかけるのにびびってスルーしてしまって、チャンスをムダにしてしまう
こともありました。

懇親会にいつでも何にも得られません。
楽しくないです。

大学の友達で、初対面の人とも遠慮なく喋りまくれる友人がいるんですが、
彼女を見るといつも
「なんであんなにペラペラ言葉が出てくるんだろう？」と不思議で不思議で
仕方ありませんでした。

サークルの飲み会でも、
気がついたら会話の中心にいるような人です。
まわりが知らない人だらけのなかでも関係なく、私は私！と堂々としてるのが
いつもカッコ良くて。

私もあんなふうになりたいな—と思ったけど、
あれは天性の才能だと思って諦めてました。

**コミュニケーション能力は、生まれつきのものだ！
と勘違いしていたんです。**

けど、今思えば、
彼女のようなコミュニケーション能力の高い人に、

必ずしも特殊なスキルがあるというわけではないんですよ。

むしろ、そういう人たちの中にも、
昔はシャイだった～っていう人がかなりの割合でいます。
みんなどこかで乗り越えてるんですよ。

私も実際、
**自信がつき、承認欲求が減ったおかげで、
カッコつけてても仕方ないんだ！**と学びました。

それがめちゃめちゃ大きかったです。
コミュニケーションの悩みが一気に吹っ飛びました。

自分をよく見せることに全力を尽くしていても、
なんもいいことなかったなと、
改めて今までの人生を振り返って、後悔しました。

自分！自分！だと、相手に何も与えられないですからね。
そんなことしてたら当然、自分にもなにも帰ってきやしません。
ちっぽけなプライドが守られるだけです。

そのことに気づけたというだけでも、
ビジネスをしていて良かったなと思います。

もちろん、
この1年で100%変わったというわけではないですよ。

21年の習慣というのは恐ろしくて、
未だに一步引いてしまう癖があります。

素直に「これしたい！」って言えずに後で「しまった…」って反省することも時々ですが、あります。

とはいっても、
今もしタイムスリップして1年前の自分に会ったら、
直視できないだろうなー、というくらいには変わりました。

昔のブログの記事をときどき見返すことがありますが、
あまりにも自意識過剰なのが文章にあらわれてて、
めっちゃ恥ずかしくなります。

けどそれも、
自分が変わった証拠です。

昔の自分をみて、
あー、今と一緒にだな。って思ってたらやばいですからね。
成長できたからこそ、過去を恥ずかしくおもうわけです。

それに、こうして文章にして振り返っていると、
私の隠したいような失敗も、
他の人にシェアすれば少しは報われるなぁと思うわけです。

私自身も人の失敗から学ばせてもらうことは多いです。

だからこそ、
自分の失敗や経験をブログやメルマガなどで発信していますし、
これからもしていきます。

そのことで、
誰かの悩みを1つでも解決できればいいなと思います！

ここまで読んでいただきありがとうございました！

[> 渡辺まみのメール講座に登録する（無料） <](#)

[> 感想はここから送ってくれると嬉しいです♪ <](#)